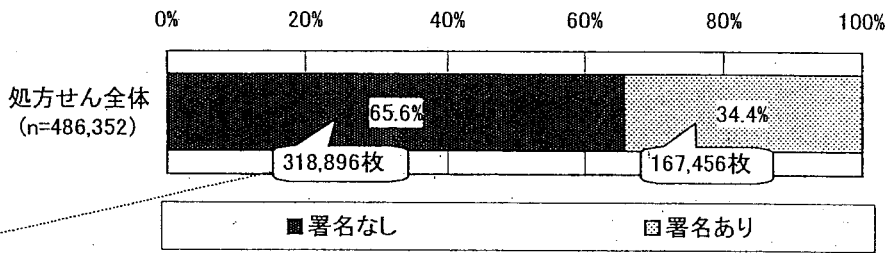


## 後発医薬品の使用状況調査について

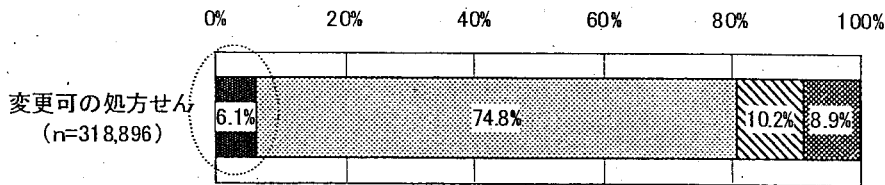
(平成20年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査より抜粋)

### ○ 「後発医薬品への変更不可」欄に署名のある処方せんの発行状況

図表 19 すべての処方せんにおける、「後発医薬品への変更不可」欄の  
処方医の署名等の有無 (平成20年12月1か月分の処方せんベース)



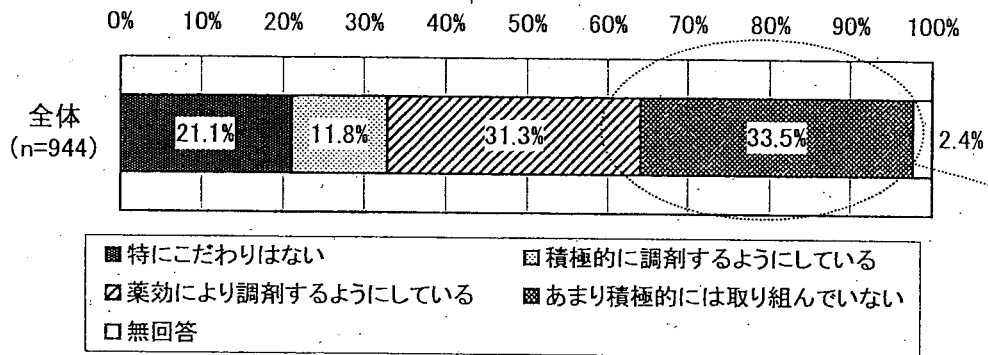
図表 20 「後発医薬品への変更不可」欄に処方医の署名等がない処方せん  
(n=318,896) における、後発医薬品への変更状況  
(平成20年12月1か月分の処方せんベース)



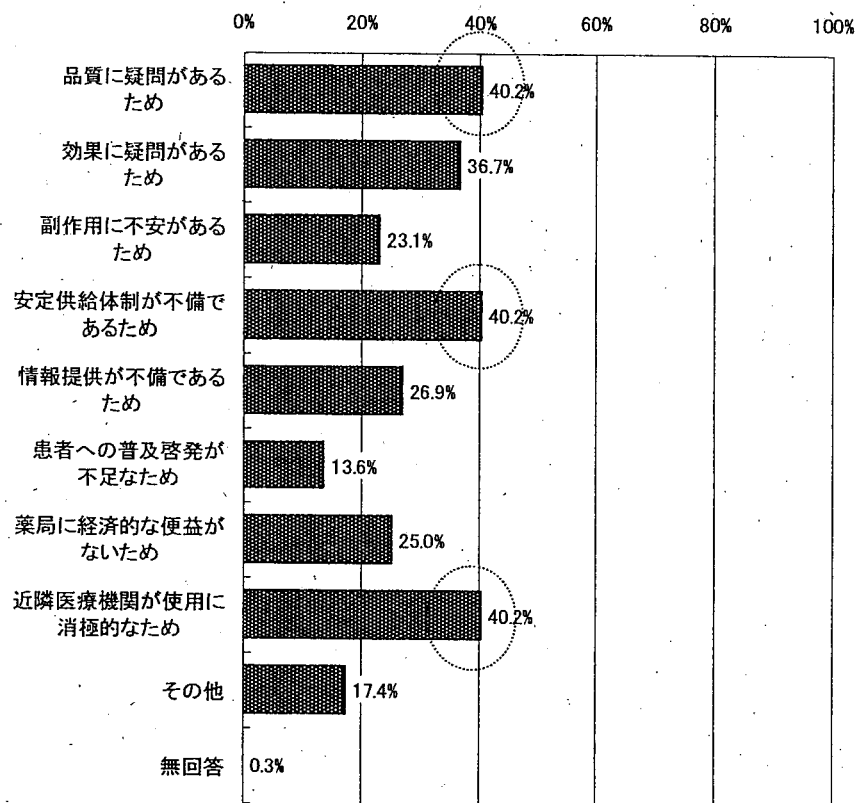
- 1品目でも先発医薬品を後発医薬品に変更した
- 後発医薬品に変更しなかった
- ▨ 処方せんに記載されたすべての銘柄について、後発医薬品が薬価収載されていないために、後発医薬品に変更しなかった
- ▩ 患者が希望しなかったために、すべて後発医薬品に変更しなかった

○ 後発医薬品調剤に関する保険薬局の考え方

図表 46 後発医薬品調剤に関する考え方

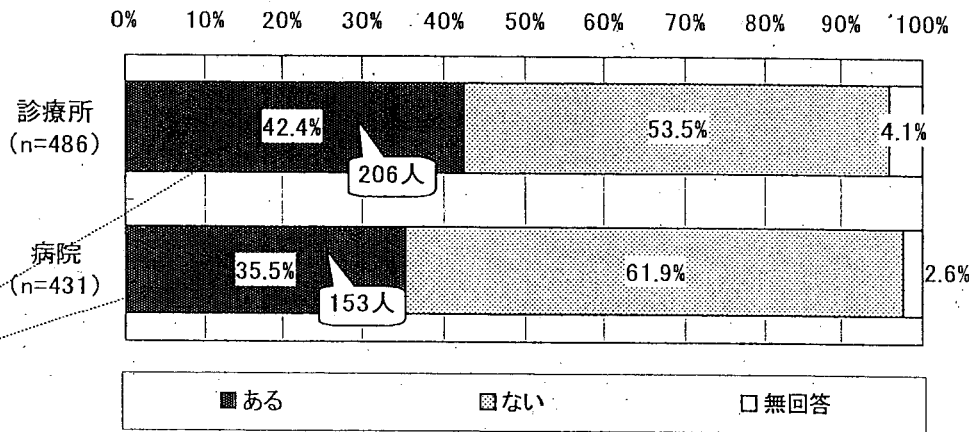


図表 47 後発医薬品の説明・調剤にあまり積極的に取り組まない理由  
(複数回答、n=316)

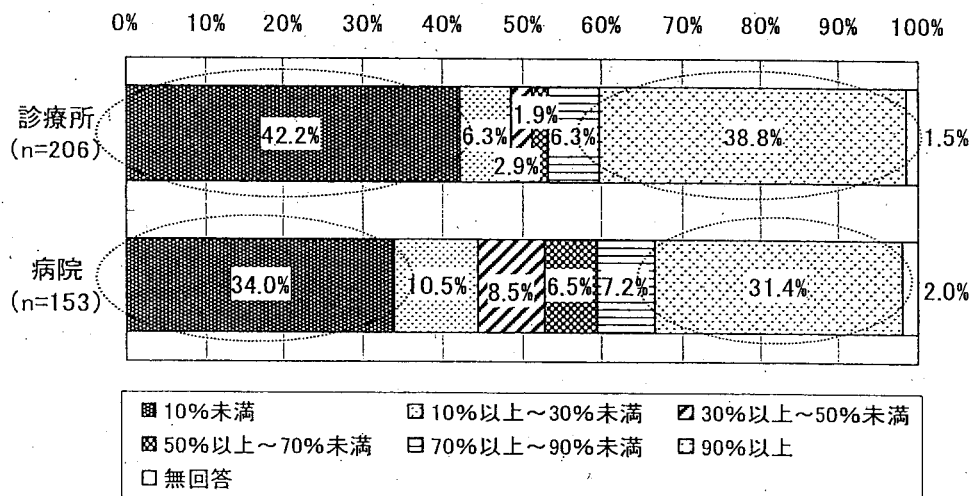


○ 処方せんの「後発医薬品への変更不可」欄への処方医の署名状況

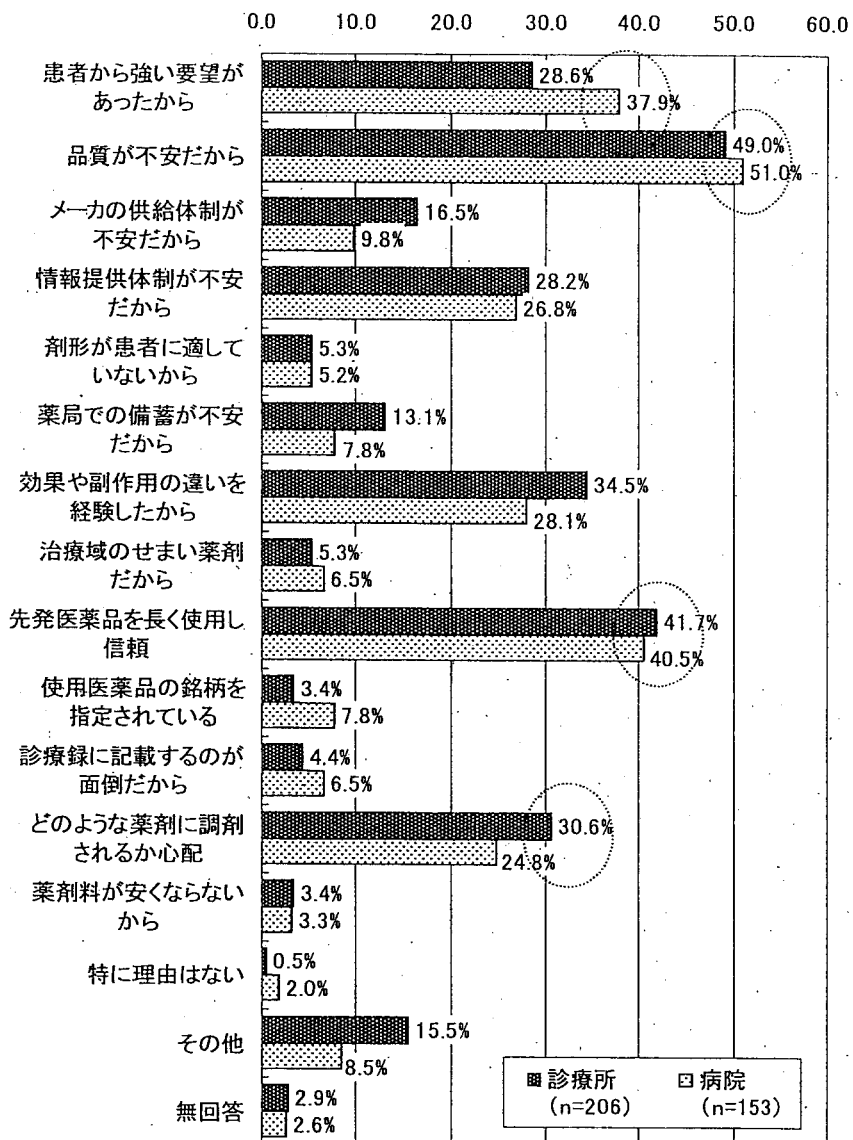
図表 79 「後発医薬品への変更不可」欄に署名した処方せんの発行経験の有無  
(医師ベース)



図表 80 院外処方せん枚数全体に占める、「変更不可」欄に署名した  
処方せんの割合 (医師ベース)

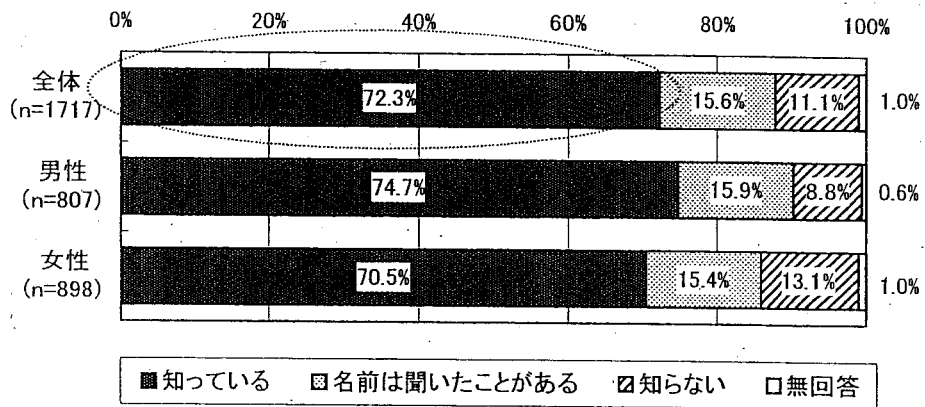


図表 81 「後発医薬品への変更不可」欄に署名した理由  
(医師ベース、複数回答)

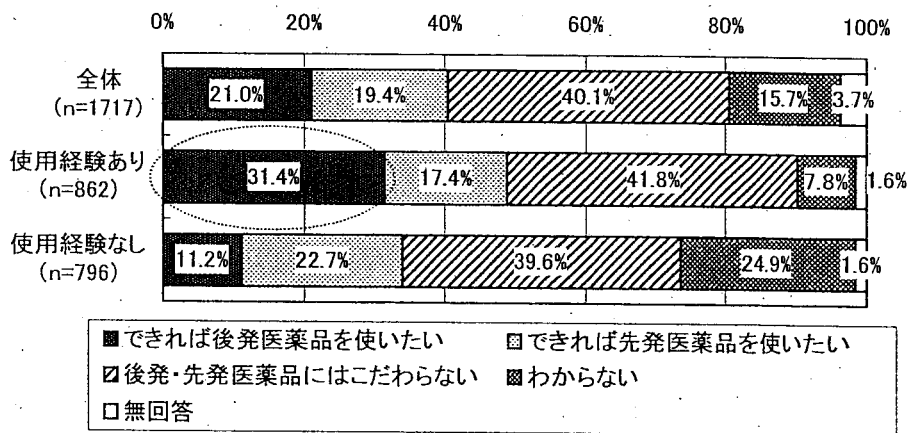


○ 後発医薬品に関する患者の認知状況

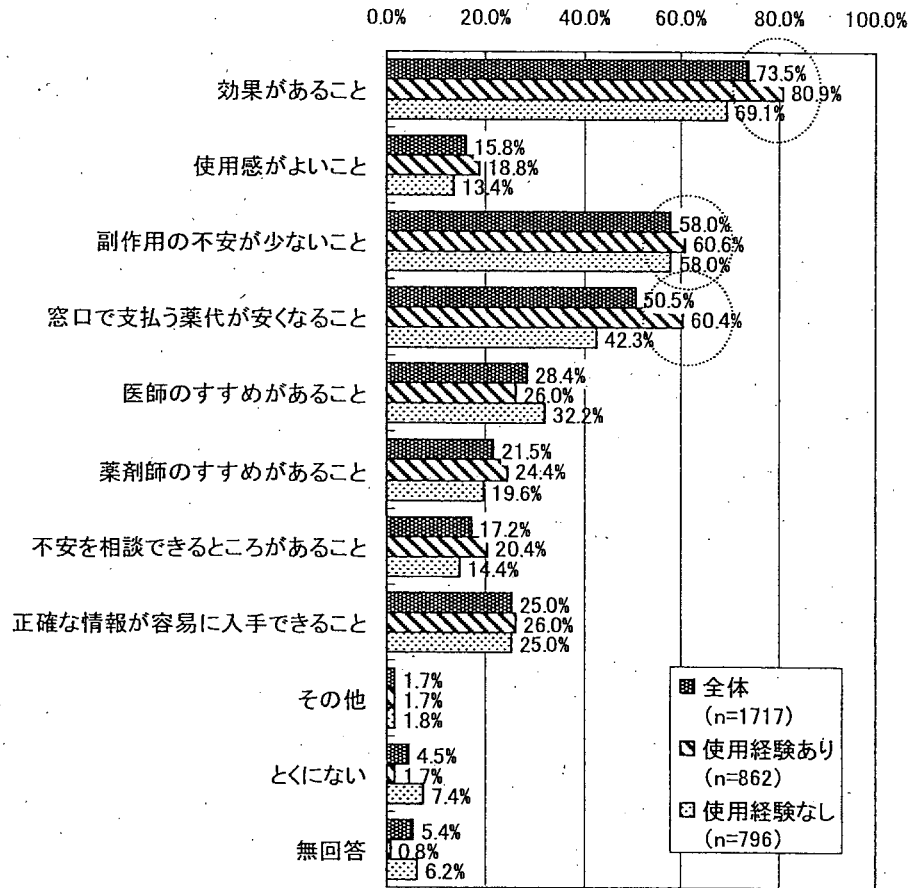
図表 104 後発医薬品の認知状況 (男女別)



図表 125 後発医薬品使用に対する考え方 (後発医薬品の使用経験別)



図表 130 後発医薬品を使用するにあたって必要なこと  
 (複数回答、後発医薬品の使用経験の有無別)



○ 検証部会としての評価（概要）

- ・ 「後発医薬品への変更不可」欄に処方医の署名等がない処方せんのうち、1品目でも先発医薬品を後発医薬品へ変更して調剤した処方せんの割合は6.1%であるなど、後発医薬品の使用の広がりがあまり感じられない。
- ・ 33.5%の薬局が後発医薬品調剤について「あまり積極的は取り組んでいない」と回答し、その理由として「品質に疑問があるため」、「安定供給体制が不備であるため」という回答が多く、また「後発医薬品への変更不可」欄に署名した理由として、約5割の医師が「品質が不安だから」と回答するなど、薬局も医療機関・医師もまだ後発医薬品に関する理解不足や不信があり、それを解消させる必要があると考えられる。
- ・ 医療機関・医師についてみれば、一部において、後発医薬品を使用しないとの強い意思表示をしていることが見受けられる。
- ・ 他方、薬局についていえば、先発医薬品から後発医薬品への変更割合が未だ低いものと考えられる。薬局側が後発医薬品の説明・調剤にあまり積極的に取り組まない原因を、更に踏み込んで究明する必要がある。
- ・ 患者側に目を転じると、後発医薬品使用に対する考え方において、「使用経験あり」の患者の「できれば後発品を使いたい」という割合が高いことから、実際の利用が後発医薬品の積極的な使用につながる面があると考えられる。
- ・ また、後発医薬品を使用するにあたって必要なこととして、「効果があること」、「副作用の不安が少ないこと」といった回答の割合が高いことから、更なる後発医薬品の信頼性の向上に努めるべきである。



報道関係者 各位

平成21年8月21日  
厚生労働省健康局結核感染症課  
照会先: 中嶋、江浪、山口  
(電話)03(5253)1111  
内線(2373、2925)  
直通 03(3595)2257

## インフルエンザの流行状況について

(今年のインフルエンザ流行シーズン入り)

平成21年第33週(8月10日～8月16日)の感染症発生動向調査では、インフルエンザの定点あたり報告数が1.69(定数約4,600ヶ所、報告数7,750人)と流行開始の目安としている1.00を上回りましたので、インフルエンザ流行シーズンに入ったと考えられます。

現在、流行しているのは、ウイルスサーベイランスの結果から新型インフルエンザ(A/H1N1)と考えられます。

国民の皆様には、以下の予防対策について、ご理解とご協力を改めお願いいたします。

- ① 手洗い、うがいの励行
- ② 症状が出た方のマスクの着用、外出の自粛、人に咳やくしゃみをかけない咳エチケット

※「咳エチケット」とは・・・

○咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用する。

○マスクを持っていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れる。

○鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐゴミ箱に捨てる。

○咳をしている人にマスクの着用をお願いする。

○マスクの装着は説明書をよく読んで、正しく着用する。

※十分な休養とバランスのとれた栄養摂取には日頃から心がけてください。

また、基礎疾患を有する方、妊娠中の方及び乳幼児の保護者の方は、**早期受診・早期治療を心がけてください**

(参考) インフルエンザに関する情報(厚生労働省ホームページ)

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/info\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/info_qa.html)



インフルエンザ定点当たり報告数・累積報告数、都道府県別

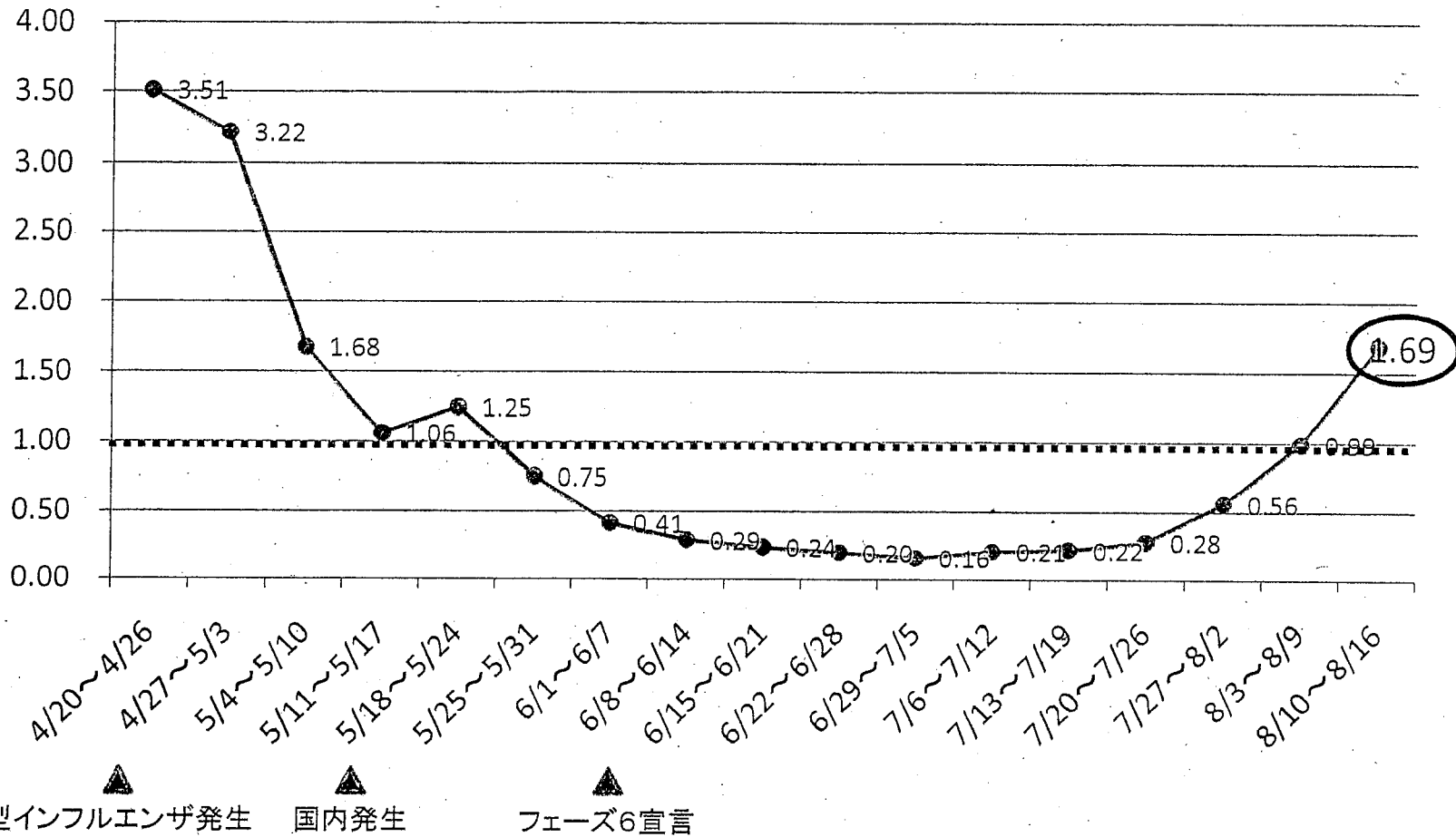
2009年33週(08月10日～08月16日)

区分	インフルエンザ	
	報告数	定点当たり
総数	7,750	1.69
北海道	74	0.32
青森県	88	1.35
岩手県	77	1.20
宮城県	39	0.41
秋田県	52	0.95
山形県	31	0.65
福島県	196	2.45
茨城県	253	2.11
栃木県	93	1.22
群馬県	79	0.83
埼玉県	412	1.91
千葉県	264	1.43
東京都	545	2.14
神奈川県	431	1.66
新潟県	77	0.79
富山県	10	0.21
石川県	39	0.81
福井県	33	1.03
山梨県	22	0.56
長野県	161	1.83
岐阜県	139	1.62
静岡県	111	0.88
愛知県	313	1.63
三重県	57	0.83
滋賀県	129	2.48
京都府	214	1.77
大阪府	584	2.14
兵庫県	231	1.19
奈良県	163	2.96
和歌山県	31	0.63
鳥取県	23	0.79
島根県	68	1.79
岡山県	34	0.40
広島県	61	0.54
山口県	36	0.51
徳島県	40	1.11
香川県	85	1.81
愛媛県	57	0.93
高知県	101	2.10
福岡県	164	0.83
佐賀県	34	0.87
長崎県	102	1.46
熊本県	41	0.51
大分県	32	0.55
宮崎県	68	1.15
鹿児島県	139	1.49
沖縄県	1,717	29.60

# インフルエンザサーベイランス

## 平成21年 週別発生状況

定点あたり報告数



資料:感染症発生動向調査(全国およそ5000医療機関(小児科およそ3000、内科およそ2000)からの定点報告)

# 新型インフルエンザによる入院患者の概況

平成21年8月18日時点

	8月12日～8月18日に 入院した患者	8月18日までに入院し た患者の累計数 <sup>※</sup>
	人数	人数 <sup>※※</sup>
入院した患者数	86人	230人
<b>年齢</b>		
5歳未満	12人	35人
5～19歳	51人	146人
20～39歳	8人	21人
40～59歳	7人	10人
60歳以上	8人	18人
<b>性別</b>		
男性	50人	139人
女性	36人	91人
<b>基礎疾患を有する者等（一部重複有り）</b>		
妊婦	1人	2人
慢性呼吸器疾患（喘息等）	16人	51人
慢性心疾患	2人	5人
代謝性疾患（糖尿病等）	4人	6人
腎機能障害	2人	4人
免疫機能不全（ステロイド全身投与等）	0人	3人
その他	20人	42人
<b>急性脳症・人工呼吸器利用<sup>※※※</sup>（一部重複有り）</b>		
急性脳症（インフルエンザ脳症、ライ症候群等）	1人	4人
人工呼吸器の利用	6人	12人
<b>患者の状態（8月18日時点）</b>		
集中治療室に入院中（人工呼吸器の利用あり）	4人	6人
同上（人工呼吸器の利用なし）	1人	1人
集中治療室以外に入院中（人工呼吸器の利用あり）	1人	1人
同上（人工呼吸器の利用なし）	48人	63人
退院（転院を含む）	25人	152人
死亡	2人	2人
不明	5人	5人

※7月28日時点で入院中の患者または7月29日以降に入院した患者の累計数

※※8月12日以前に入院したが8月12日以降に報告された症例を含む

※※※入院中に一時期でも急性脳症に罹患又は、人工呼吸器の利用した患者の数

# 厚生労働省の取り組み

○重症化防止を最優先とする医療体制の整備、  
予防接種対策の推進

○地方自治体と連携した適切な感染防止対策

○医療機関に対する重症事例等を集めた症例集  
の配布

○基礎疾患を有する方、妊娠中の方、乳幼児の  
保護者の方への情報提供の強化

○抗インフルエンザウイルス薬の備蓄